

I 概要

1 研究主題

学習への粘り強さと自己調整力の育成 ～単元の PDCA の展開と充実～

2 研究のねらい

令和2年度～令和4年度の校内研究を踏まえた実践を行い、生徒にとってより効果的で納得性の高い評価により、生徒の学習への粘り強さや自己調整力の育成をめざす。

また、指導者が日常的に負担なくできる指導と評価の一体化を追求する。

3 R5年度の研究方法

- ① 学習指導要領に照らし合わせて作成した「千代中学びプラン」（年間計画）を常に意識し、単元や学習のまとまりごとに、生徒に対して「目標の提示」や「つけたい力は何か」、「他教科との関連はどこか」、「それをどのように測定(評価)するのか」等、千代中としてこれまで3年間取り組んできたことを着実、確実に実践する。
- ② 講師による講話を聞き、各教科担任がPDCAを基にした授業づくりを行い、研究主題の探求を行う
- ③ 4グループに分けてグループ毎・教科毎に研究主題に迫り、授業研究を進める。

第1グループ：国語科＋英語科

第2グループ：数学科＋理科＋社会科

第3グループ：保健体育科＋美術科＋音楽科＋技術・家庭科

4 年間の実践内容（具体的な日程・内容について）

月日	内容	詳細
4/7(金)	【第1回校内研究全体会】	今年度の研究について下記の確認・修正 ① 教科年間計画、全教科年間カリキュラム ② 教科単元計画 ③ 所属グループでの研究授業発表者の決定
5/25(木)	【第2回校内研究全体会】 *指導主事による講習会	県政教育事務所指導課内藤指導主事による講義。主体的に学習に取り組む態度の評価、まとまりを大切にした授業計画、生徒が見通しを持って授業に取り組むために、という3点についての講義。
11/13(月)	【第3回校内研究全体会】 *研究授業	理科・家庭科・英語科よりそれぞれ一名が公開研究授業を実施。
3/14(木)	【第4回校内研究全体会】 *次年度の年間計画の仮決定	今年度のまとめ、来年度の校内研究計画（仮）を提示し、検討を実施。

5 その他

① H31 年度まで 3 年間実施した「千代中スタンダード」の可能な範囲での継続

千代中学校スタンダード

【説明スタンダード】

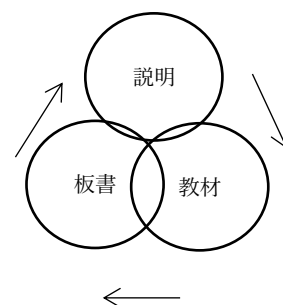
- 見てわかる説明を心がける（視覚）
- 聞く姿勢を作って説明する（聴覚）

【板書スタンダード】

- 黒板には授業に必要なものは一切掲示しない
- 授業 1 時間分の板書は黒板 1 枚程度とする
- 「本時の目標（めあて）」「本時のまとめ」を明確にする

【教材グループ】

- 学ぶ意欲を引き出すための教材を使用する



- ② 黒板には月日と日直のみ記入し、授業で使えるスペースを確保する。教室にあるホワイトボードはプリントの掲示等で使用する。
- ③ 職員室前のホワイトボードには、教科ごとに現在学習中の内容の記入し、定期的書きかえる。
- ④ ICT 活用の充実を図る。ICT 推進委員の先生方を中心に、積極的に授業へ取り入れる。

II 成果と今後の課題

1 年間の研究を通して、本校で作成している「学びプラン」（年間計画）や単元計画の有用性が確かめられた。第二回の全体会での指導主事の講義であったように、それらを作ったままにせず活用するためには、評価規準の具体を明らかにすること、振り返りを活用して前時からの変化を見取ること、単元計画や授業のまとめり毎に定期的に計画を見直すことが大切である。本校では多くの職員がすでに振り返りシートの活用や、単元ごとの評価を生徒とともに確認することで、学習内容や理解度の確認を行っている。第三回全体会でも、授業参観後の指導主事の講評の中に毎授業での振り返りの大切さについて、各授業者の授業実践や授業計画をする際に心がけていること等の実践の具体についての協議を通して、各職員が自分の授業ではどのように取り入れられるか、単元を大切に PDCA を回す際に気を付けるべきポイントはどこか確認できたのではないと思う。

今後の課題は、個々の職員へのアプローチが足りていなかったことである。全体会を通して、研究テーマの理解については深めることができたと思うが、それを各職員がいかに日々の授業や年間を通して自分に還元したのか、自分の授業に足りないところや良かったところを客観的に振り返る機会がなかったことである。次年度では、それぞれの職員がお互いの授業計画や実践をさらに見合い、全体会で学んだことを実践し、振り返るためのシステムづくりを充実させていきたい。